

# 英語 ENGLISH



## 企画の概要

プログレス英語は、難関大学を志望する上位生向けの教材です。英文法は、文法事項を簡潔にまとめており、充実した演習量で、早期から幅広い問題形式に慣れていくことができます。また、より入試に活かせる知識となるよう、一部の文法問題の英文にSDGsなど近年の入試読解文でよく見られる表現を採用。巻末には、全5回の自由英作文ページを新設しました。英語長文Ⅰでは、近年の入試傾向にあったテーマ・問題形式となるよう、すべての講の素材文と問題を最新の内容に差し替えています。また、これにあわせて従来よりも自然科学・社会系の内容を増やし、表の読み取りを含む実用文も一部取り入れるなど、扱うテーマも刷新しました。

## プログレス 英文法

### 第1講 文の成り立ち

#### POINT

- ・英単語はその働きから見て、名詞、代名詞、冠詞、形容詞、副詞、動詞、助動詞、接続詞、前置詞、関係詞に分けられる。
- ・英文の主な構成要素は主語・述語動詞・補語・目的語と修飾語句である。
- ・2語以上がまとまって1つの品詞の働きをする場合は、品詞名に「句」「節」という語をつけて、名詞句、名詞節などと表す。SVが含まれていれば「一節」、含まれていなければ「一語」と呼ぶ。
- ・ここで品詞と文の構成要素との関係を見てみよう。(○は文要素になれることを示す。)

	主語(S)	述語動詞(V)	目的語(O)	補語(C)	修飾語(M)
名詞(句・節)	○	○	○	○	○
代名詞(句・節)	○	○	○	○	○
冠詞	○	○	○	○	○
形容詞	○	○	○	○	○
副詞	○	○	○	○	○
助動詞	○	○	○	○	○
前置詞	○	○	○	○	○
関係詞	○	○	○	○	○

・文の種類・文の内容からの分類と文の構成からの分類がある。

- 1 主な品詞の働き
  - (1) 名詞句・名詞節を修飾したり、説明したりする。
  - (2) 動詞・形容詞・副詞・動詞・文全体を修飾する。
  - (3) 動詞・目的語・目的語・名詞・名詞相当語句、補語・目的語・名詞・形容詞、それらの相当語句をとれる。
- 2 名詞の働きをする主要な句と節
  - (1) 名詞句
    - ① 動名詞(動詞+ing)(～すること)
    - ② 不定詞(to+原形動詞)(～すること)
  - (2) 名詞節
    - ① that+SV(～ということ)
    - ② 疑問詞+SV(～何を～すべきか、etc.)
    - ③ whether/if+SV(～かどうか)
    - ④ 関係詞+that 節(～という～)
- 3 形容詞の働きをする主要な句と節
  - (1) 形容詞句
    - ① 前置詞+名詞(or 動名詞)
    - ② 不定詞(形容詞的用法)
  - (2) 現在分詞・過去分詞
  - (3) 形容詞句
    - ① SV 後補語
    - ② 関係代名詞節
- 4 副詞の働きをする主要な句と節
  - (1) 副詞句
    - ① 前置詞+名詞(or 動名詞)
    - ② 不定詞(副詞的用法：目的/原因/理由/結果などを表す。(→第7講))
    - ③ 分詞構文：動詞の-ing形を使う構文。(→第11, 12講)
  - (2) 副詞節
    - 時-when, while, before, after, untilなどの節。
    - 条件-if, unlessなどの節。
    - 譲歩-though, althoughなどの節。
    - 理由-because, asなどの節。
- 5 文の種類
  - (1) 文の内容からの分類
    - ① 平叙文
    - ② 疑問文
    - ③ 命令文
    - ④ 感嘆文
  - (2) 文の構成からの分類
    - ① 「原文」→(S+V)が1つだけの文。
    - ② 「英文」または「英文」→(S+V)が2つ以上ある文。英文は主語と従属節か。
      - 英文-and, but, or, so, forなどで2つ以上の文が等格に結び合っている文
      - 英文-接続詞で導かれる文が、他の文の一部(S・O・C・M)になっているもの文や、if, when, becauseなどの条件・時・理由などを表す従属節

## POINT・文法解説

各講の冒頭で文法事項を導入します。効率よく必要な知識を吸収できるよう、押さえるべき内容をコンパクトにまとめました。

## 基本問題

問題演習を通して一通りの文法事項を確認します。「コーチ」にはすべての小問について考え方のヒントが載っていますので、教室での学習のほか、学習用としても役立ちます。

### 基本問題

- 1 次の文の主語と述語を指摘して、全文を和訳しなさい。
  - (1) The girls were lying on the grass with their eyes closed.
  - (2) The house that stands on that corner is my uncle's.
  - (3) What did you buy for her for Christmas?
  - (4) There are fifty states in the United States of America.
- 2 次の下線部は名詞句・形容詞句・副詞句のどれか。
  - (1) He wanted to pass the examination.
  - (2) He worked hard to pass the examination.
  - (3) All the books on the desk are about cooking.
  - (4) I found the key on the desk.
  - (5) Eating too much is not good for your health.
  - (6) We finished eating our lunch.
- 3 次の各文中の節を指摘し、名詞節か、形容詞節か、副詞節かを答えなさい。
  - (1) This is the man I saw at the airport.
  - (2) He walked so fast that I could not catch up with him.
  - (3) I'll show you the coins when you come next time.
  - (4) I don't know when the meeting will be over.
  - (5) I think that Tom will get well soon.
  - (6) You will miss the train if you don't hurry.
  - (7) I don't know if he is free this afternoon.
- 4 次の各組の文がほぼ同じ内容を表すように、( ) に適語を入れなさい。
  - (1) My grandmother drops in at my house every time she comes this way.  
→My grandmother ( ) comes this way ( ) dropping in at my house.
  - (2) In spite of his wealth, the president is not happy.  
→( ) he ( ) wealthy, the president is not happy.
  - (3) He couldn't join us because of illness.  
→He couldn't join us ( ) he ( ) ( ) ( ).
  - (4) He proved his innocence.  
→He proved that ( ) ( ) innocent.
  - (5) Don't speak while your mouth is full.  
→Don't speak ( ) your mouth full.
  - (6) Please tell me your address.  
→Please tell me ( ) ( ) live.

### コーチ

- 1 文の主語・述語の働き
  - (1) 主語・述語(「句」にある部分)＝主語 The girls, 述語(「だ[する]」にある部分)＝動詞+2つの副詞句。
  - (2) 主語＝主語・形容詞節、述語＝動詞・補語。
  - (3) 主語＝主語・述語＝疑問詞+動詞+2つの副詞句。
  - (4) There are 50 states in the United States of America.
- 2 句の働き
  - (1) wantedの目的語。
  - (2) 「～するために」(目的)でworkedを修飾。
  - (3) the booksを修飾。
  - (4) foundを修飾。
  - (5) 前は主語、後ろはgoodを修飾。
  - (6) finishedの目的語。
- 3 節の働き
  - (1) I以下はSV 後補語。
  - (2) 「～するために」(目的)でwhen以下は目的語。
  - (3) that以下は目的語。
  - (4) 否定文は「否定」を表す。
  - (5) ば(～)は目的語。
- 4 英文の構文の書き換え
  - (1) 「動詞はこらへる」といふのが原文に立ち寄る。英文→英文
  - (2) 「～にもかかわらず」→「～だが」に英文→英文
  - (3) because of ～「～のために」。英文→英文
  - (4) innocent「無実」。英文→英文
  - (5) 「口」にものをほおぼって。英文→英文
  - (6) address「住所」。英文→英文

### 演習問題

- 1 次の各文中の句を指摘し、名詞句か、形容詞句か、副詞節かを答えなさい。
  - (1) It is convenient for me to contact you by email.
  - (2) He could not understand the formula with ease.
  - (3) How to make the chemistry experiment is the question.
  - (4) The boy in the blue cap is my nephew.
  - (5) This statistical data was of great use.
  - (6) They decided not to go there.
  - (7) He gave me a book with a torn cover.
  - (8) I don't blame you for not inviting him.
- 2 次の各文中の節を指摘し、名詞節か、形容詞節か、副詞節かを答えなさい。
  - (1) The fact that you are young doesn't matter to me.
  - (2) Put this book back where you found it.
  - (3) This is the village which the poet was born in.
  - (4) Please tell him to phone me when he returns.
  - (5) Here is the man we were talking about.
  - (6) He hasn't decided yet which book he will buy.
  - (7) This is the book which I'm going to buy.
  - (8) He didn't tell us when he would return.
- 3 次の各組の文がほぼ同じ内容を表すように、( ) に適語を入れなさい。
  - (1) Who can tell what will happen in the future?  
( ) ( ) can tell what will happen in the future.
  - (2) He was the first American to visit Japan.  
( ) ( ) visited Japan.
  - (3) While he was staying in Paris, he often visited the Louvre Museum.  
( ) ( ) stay in Paris, he often visited the Louvre Museum.
  - (4) Since it rained, the game was canceled.  
( ) ( ) ( ) rain.
  - (5) I was surprised that he failed in the examination.  
( ) ( ) surprise, he failed in the examination.
  - (6) He's promised that he'll never tell another lie.  
( ) ( ) tell another lie.
  - (7) I have no idea of his reasons for leaving.  
( ) ( ) left.
  - (8) I would like to know the closing time of this store.  
( ) ( ) this store ( ) ( ).
  - (9) He ran away at the sight of the police officer.  
( ) ( ) ( ) the police officer, he ran away.

## 演習問題

「基本問題」までで押さえた内容について、より実践的かつ幅広い出題形式で学習します。

※「プログレス英文法」には、生徒用音声は付属していません。

## 自由英作文① 経験・エピソードを述べる

例 以下の【テーマ】について書かれた英文文法を読みなさい。

【テーマ】 あなたの家族のひととの交流の経験と、そこから学んだことについて、50語～80語の英文で書きなさい。

例文 I have a grandmother in a town far away. She lives there alone. One day, when my family and I visited her, she said she had difficulty in going up and down the stairs. My parents decided to install handrails on the stairs and in the hallway. Now she can live more easily. I didn't know she had such trouble because she still looked fine. Since then, I have come to think about whether others have any trouble. (78語)

【本文の構成】 経験・エピソードを述べる時

- 経験やエピソードを述べる際、以下の順番で述べるとわかりやすい文章になる。
1. [Topic Sentence] 何についての経験・エピソードを述べようとしているのかを簡潔に示す。
  2. [Supporting Sentence] 1. についての具体的な経験・エピソードを述べる。起きたことは基本的に時系列に沿って書いていく。
  3. [Concluding Sentence] 締めくくる。2. の経験のまとめや、経験をもとに考えたことや学んだことを述べる。それ以前の自分の考えと対比させると、経験の重要性を強調することができる。

【重要表現】

1. Topic Sentence
  - ① 話題提示
    - ・(未来時制を用いる) I will [am going to] write about ～、「～について書きます」
    - ・(現在時制を用いる) I have a friend ～、「～な友だちがいる」
    - ・(過去時制を用いる) I had an experience ～、「～の経験をした」
  - ② 意見提示
    - ・I think (that) ～、「私は～だと思う」
2. Supporting Sentence
  - ・when, then, one day, ～ ago, ～ later
  - ・(習慣を表す助動詞を用いる) would (used to) ～ (よく～したものだ)
  - ・(感情を表す動詞を用いる) be surprised at ～ (～に驚く), be impressed by ～ (～に感銘を受ける)
3. Concluding Sentence
  - ・After that/Since then, ～、「それから、～」
  - ・From/Through this experience, ～、「この経験から[を通して]、～」
  - ・try (not) to ～「～しようとし(ない)ようにする」
  - ・start to ～, learn to ～, come to ～「～するようになる」

122

## 自由英作文

作文の目的別に全5回で構成しました。段階を踏んで学習できる構成となっており、文章の基本パターンと重要表現を学んだあと、穴埋め式の演習問題で表現を押さえてから自由英作文を書きます。英文法の学習と並行して学べるよう、「重要表現」で扱う文法項目も調整しました。リターンマークから英文法のページに戻って復習することも可能です。

## 個別指導の運用例(1コマ80分)

確認テスト(前回の復習) 25分



POINT・文法解説 15分



基本問題 15分



演習問題 25分

※その他の運用例

- ・確認テストは「前回の復習」としてではなく、当日の授業の最後に使用。
- ・演習問題の一部を宿題とし、自由英作文を3回ほどの授業に分けて扱う。

# プログレス 英語長文Ⅰ・英語長文Ⅱ

## 第1講 文化(1) サミ族

次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。(目安時間 11分)

I traveled to Finland several years ago and saw people in colorful ethnic costumes on the streets during my trip. Their beautiful clothes caught my eye, and I became interested in who they were.

They are the indigenous "Sami people," who inhabit Norway, Sweden, Finland, and part of Russia. They have lived with reindeer in extremely cold places for many years by moving from place to place. They live by selling

or "kolt," are made of felted fabric attractive. "Doodi" are bracelets Sami people. "Almo," "kukes" are

make anyone who receives it happy. Just like indigenous people in (ア) several problems. Some certain areas of residence where

have been ordered to pay taxes at have been hunted excessively. As their traditional lifestyle and felt of the Sami people still live in th has been denied by forcing them their native Sami language.

Another serious problem for the recent global warming. Snow that later forms into thick layers of ice the food for their reindeer is trs hungry and have to move farth

reindeer are monitored by GPS ar In 1986, the Sami Council was e and protecting their rights and in rights for indigenous people have not led to completely solving any

problems first and then come up v

(注) kolt: 小ぶ Christianity: キ

2

保護することを目的として、サミ評議会が設立された。

原住民の権利回復の世界規模の動きは既に始まったが、それらは単に表面的なものにすぎず、その問題も完全に

解決するには至っていない。私たち1人1人がまずは彼らの問題を認識し、そして将来のための解決策を考案する必要がある。

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

サミ族の中には今でも伝統的な生活様式を続けている

る人がいる。「ヨイク」と呼ばれる彼らの伝統的な歌はそのような伝統の一つである。それはもともとアカバウ曲だったが、最近では打楽器を伴って歌われている。それは、自然と共生するサミ族が、自然と対話することができるようになるために作られたと言われている。彼ら(サミ族)は自然への感謝を表したり、赤ちゃんの誕生を祝ったり、愛する人への気持ちを伝えたがすためにそれ(ヨイク)を歌う。彼らはまた、1人でトナカイのそりに乗っているときなど、孤独に耐えるためにそれらを歌う。

## 本冊

入試で頻出のテーマを分析し、カリキュラムを再構成。すべての素材文をオリジナルで書き起こしました。目安時間と語数を記載しているので、速読を意識した学習が可能です。また、QRコードよりすべての長文の音声を確認することができます。「Further Reading」のコーナーでは、本文と同一のテーマで別の視点から述べた文章や、より抽象度を上げた文章などを問題とともに掲載しており、テーマについてのより深い学習ができます。こちらは宿題としても最適です。

## 解答解説

すべての長文に全文訳を載せました。また、「重要構文」コーナーでは、各講の掲載内容の一部を「プログレス英文法」のカリキュラムにあわせています。

## 個別指導の運用例(1コマ80分)

確認テスト(前回の復習) 20分



長文問題 20分



長文問題の解説 重要構文 25分



Further Reading 15分

※その他の運用例

- ・確認テストは「前回の復習」としてではなく、当日の授業の最後に使用。

# プログレス 英語構文

ポイントを絞った要点整理で効率的に導入。豊富な類例により知識の幅を広げます。問題は文法から短文、長文と段階を踏んで学習できる構成です。

# 数学 MATHEMATICS



## 企画の概要

## 本書の概要

プログレス数学は、主に中学までの学習内容がきちんと身に付いていて理解力のある生徒をメインターゲットとしています。新出事項の学習はなるべく効率重視にして、高1・高2から応用問題に取り組ませて知識活用力を高めていきたいお客様に最適な教材です。スタンダード・ベーシックのような、穴埋めで作業しながら理解していくスタイルではないので、すっきりとした紙面構成でページも多くないため持ち運びやすく、復習でも使いやすくなっています。解答解説は別解も充実させており、多様な生徒の発想力にも対応することができます。なお、数学Ⅲはプログレスのみでご提供となっておりますので、スタンダード利用の場合も理系受験など数学Ⅲを必要とする場合には『プログレス数学Ⅲ』をご利用ください。

# プログレス

数学 I · 数学 II · 数学 III · 数学 A · 数学 B · 数学 C

## 基本事項

新出事項は、復習で活用しやすいようにすべて講の冒頭でまとめて解説しています。具体的な計算方法は「例題」に任せ、要点に絞った解説となっているので、順に読むことで知識を整理してスピーディに習得することができます。

### 例題・類題

「基本事項」を読んだあとは、「例題」・「類題」として「基本事項」の内容に対応した典型題に取り組むことでその理解を深めるとともに、新出事項の活用方法に親しみます。スタンダードの「例題」と比べて、穴埋め式にしないことでよりテンポよく学習を進めることができ、またワンランク上の問題まで扱っているため、より速くステップアップしていくことができます。

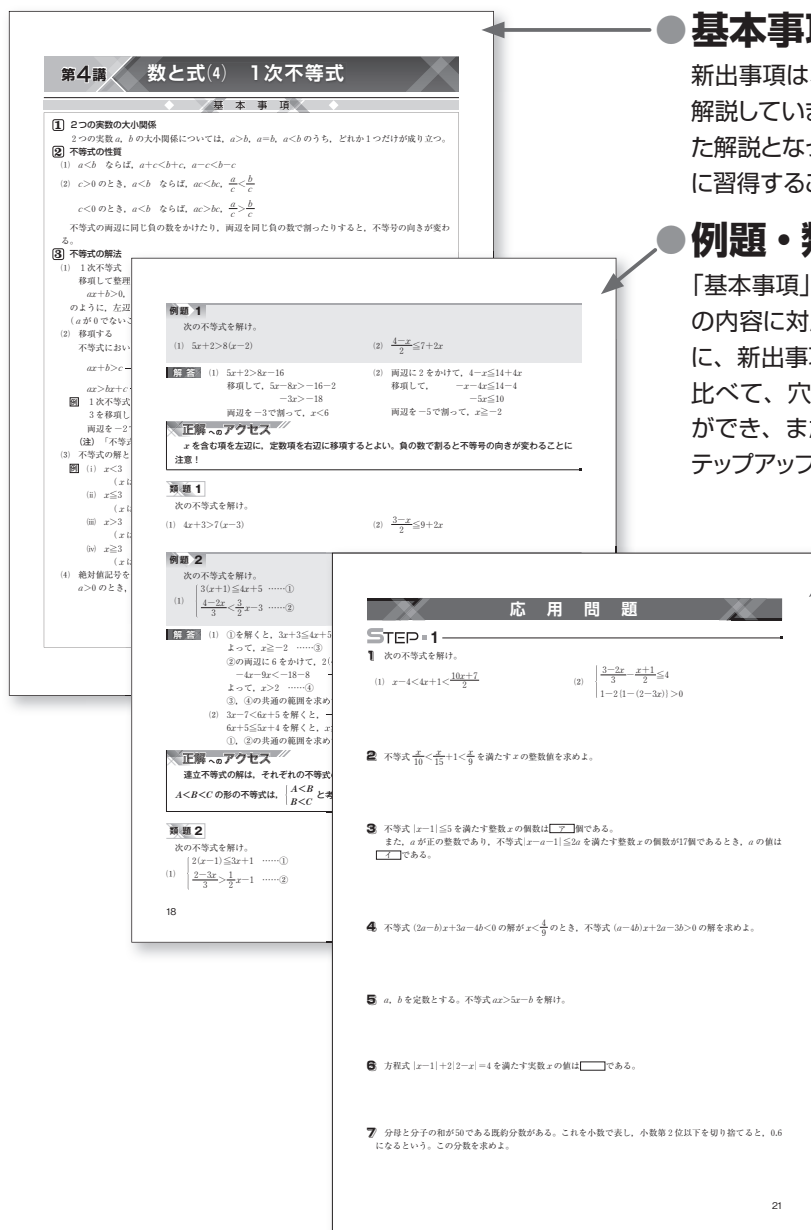
## 應用問題

教科書の章末難問～入試入門レベルの高水準の問題で、早期から知識活用力や複雑な問題に対応する論理性を養うための問題です。ただ計算するだけでなく、新出事項の意味理解も深化できるよう問題を精選しています。

## 個別指導の運用例(1コマ80分)

基本事項・例題・類題	予習
↓	
確認テスト(前回の復習)	25分
↓	
演習問題	30分
↓	
応用問題	25分

※演習問題・応用問題の残りは宿題。



# 国語 JAPANESE



確認テスト  
付き

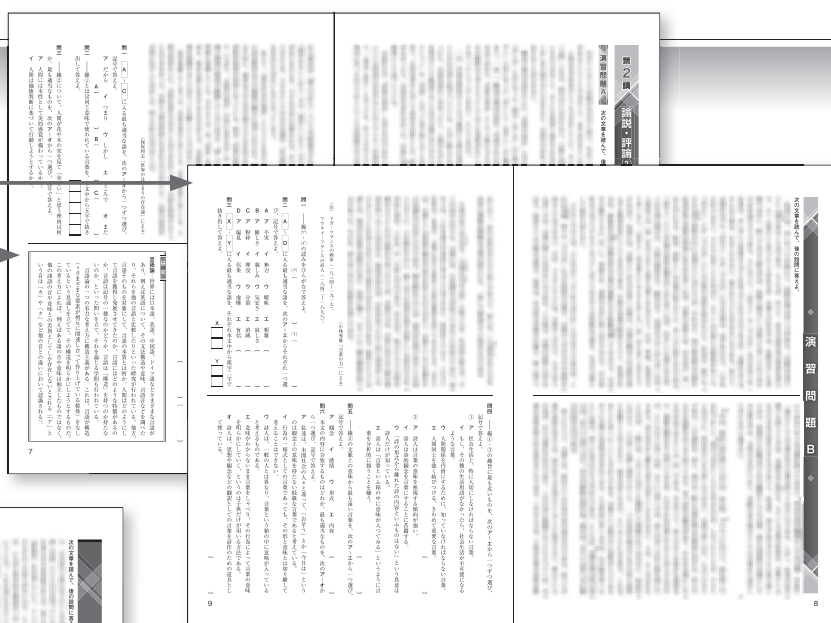
## 企画の概要

難関大学の入試に対応するテキストであるプログレスの国語。現代文Ⅰは、科学論や言語論といった、大学入試で頻出のテーマに基づいてカリキュラムを立て、読解演習を中心に学習を進める教材となっています。各テーマについて演習問題A→演習問題Bと段階を追って内容・設問ともに難易度が上がる構成です。また、各講で学んだ内容をより深めた実力錬成問題のコーナーを追加しました。近年の大学入試の動向を踏まえて、従来よりも文章量を増やした長文問題や、複数の文章の読み比べ問題など、入試を意識した実戦的な問題を扱うコーナーになっています。難関大学受験を見据えて、総合的な読解力を確実に身に付けていくことが可能です。

## プログレス 現代文Ⅰ

### ●演習問題A・演習問題B

「演習問題A」では各講のテーマに関する基本的な内容の文章を読み進めます。「研究」のコーナーでは、そのテーマに関連のある用語を説明し、文章の背景知識を増やすことで、さらに深い理解が可能に。「演習問題B」では、「演習問題A」で学習したテーマを踏まえ、より難度が高い内容と設問に取り組めます。

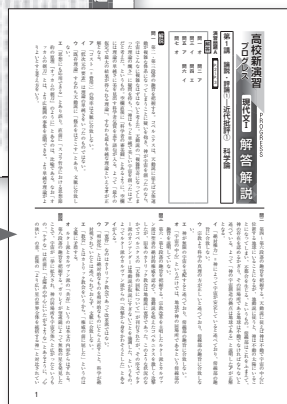


### ●実力錬成問題

各テーマの内容をより深化させた上で、大学入学共通テストや新学習指導要領、それらを踏まえて出題されている近年の大学入試の新傾向問題を盛り込んでいます。

### ●解答解説

一問一問に対して、非常に詳細な解説をつけています。個別・自立学習にも対応できるほか、講師の授業マニュアルとしても利用可能です。



## 個別指導の運用例(1コマ80分)

確認テスト(前回の復習) 15分



演習問題A 30分



演習問題B 35分

※実力錬成問題は宿題。

※その他の運用例

・確認テストは「前回の復習」としてではなく、当日の授業の最後に使用。

## プログレス 現代文Ⅱ

プログレスⅠ同様、文章のテーマ別カリキュラムです。大学入試で頻出のテーマを、そのテーマの典型的な文章で深く掘り下げます。



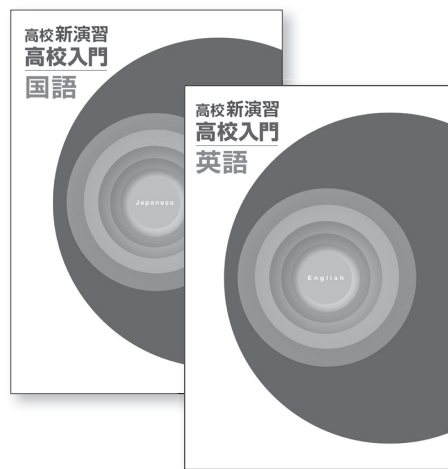
# 高校新演習 高校入門

中学と高校の橋渡しに最適!

多様なレベル・使用層に対応した決定版



教科	ページ数	本体予価+税	サイズ
国語	40P	780円+税	B5
数学	40P		
英語	36P		



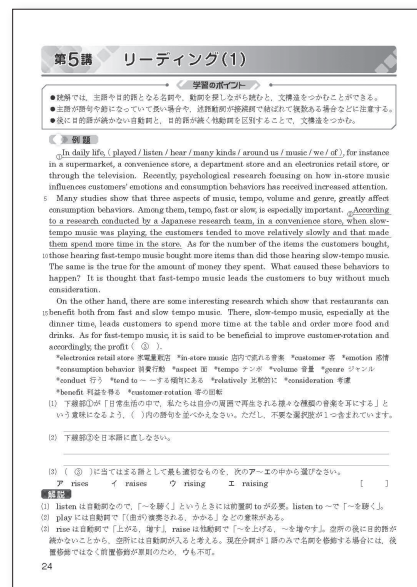
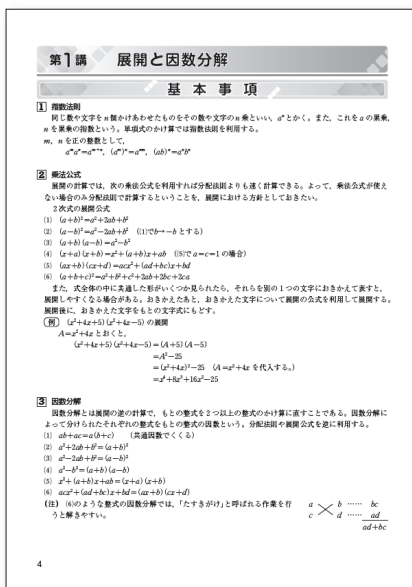
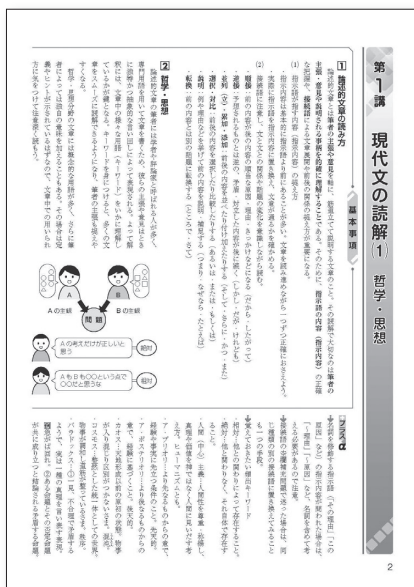
※表紙デザインは変更となる場合があります。

## 1 高校入学後も塾で学習したくなる! 学びを促進する構成

高校の最初で学習する初歩的な内容はもちろん、中学までとは質的に異なる内容・勉強法まで、幅広く扱います。高校での学習に見通しを立てることのできるテキストです。高校教科書の少し深い段階までをあえて提示することで、高校入学後も塾に通って学ぶことの大切さを生徒に体感させる作りになっています。

## 2 目的やレベルに応じて、多様な使用法が可能!

国・数・英ともに6講で構成しました。前半3講と後半3講でレベル・目的を大きく二分しています。文字通り「高校入門」レベルの生徒や、難関高校に合格して歯ごたえのある問題を求めている生徒など、多様な使用層に対応したカリキュラム&コーナー設定を実現。使用時期・目的も、推薦入試で早めに進路を決めた生徒の進学準備、春期講習用テキスト、高校入学後の学力定着など、幅広くご使用いただけます。



### ●国語

現代文3講・古典3講の構成です。現代文では抽象度・語彙レベルの高い読解問題を出题。中学までとは質的に異なる読解力の必要性を実感することが可能です。古典は用言の文法を先取り学習します。

国語	1講	現代文の読解(1) 哲学・思想
	2講	現代文の読解(2) 言語・文化
	3講	現代文の読解(3) 社会科学
	4講	古典文法(1) 動詞の活用形
	5講	古典文法(2) 動詞の活用の種類
	6講	古典文法(3) 形容詞・形容動詞
		文語文法要覧

### ●数学

後半3講に、高1最初の山場である2次関数を配置しました。前半には、2次関数を解くために必要な代数の内容と、図形を配置。各講は、スモールステップで理解を深められる構成となっています。

数学		高校へのブリッジ
	1講	展開と因数分解
	2講	1次不等式・絶対値
	3講	図形の性質(数学A)
	4講	2次関数とグラフ
	5講	2次関数の最大・最小
	6講	2次関数の決定

### ●英語

前半を文法、後半を読解にあてました。文法では、中学の重要文法と高校文法の先取り内容を学習。読解では、英文の読み方や、品詞・文構造を意識した読解の基礎を身に付けることができます。

英語	1講	品詞の判別・文構造
	2講	基本時制・完了時制
	3講	不定詞・動名詞・分詞
	4講	リーディング イントロダクション
	5講	リーディング(1)
	6講	リーディング(2)
		重要構文